

登録コード	E8565400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	中島 卓郎	
英文授業名	Graduation Study					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	音楽の本質的理解を通して、学校音楽教育における音楽科の特性を捉え、教員としての使命感を持つようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	世界の多様なピアノ音楽を文化的背景や時代様式および構造をもとに演奏解釈し、適切な技能の習得とともに表現し、それらを踏まえた音楽科の授業内容と方法について考えることができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	教育者としての幅広い視野を培い、理論と授業実践との関連を考察できる能力を身につける。 音楽の構造を知覚し特質や雰囲気を感じ受した上で、文化的背景とかかわらせつつ演奏解釈をし、表現を創意工夫する。							
(5)授業計画	講義および個人レッスンの形態で展開する。 第1回 ピアノ演奏における身体の状態と表現の関連 第2回 論文指導（教育実践学に基づく研究の意義） 第3回 ピアノ演奏における高度な技能の具体 第4回 論文指導（教育実践学に基づく研究方法と先行研究） 第5回 音楽表現における創意工夫 第6回 研究対象の焦点化と用語の規定(論文) 第7回 ピアノ曲における多層的表現 第8回 ピアノ演奏における呼吸と拍節・リズムの関連性 第9回 ピアノ演奏における呼吸とカンタービレ奏法 第10回 演奏表現における論理性(フレーズの関連性と形式) 第11回 音楽の構造原理(反復・変化・対照)を基にした多様な表現 第12回 結論に対する批判的検討(論文) 第13回 風土・文化・歴史と演奏表現の関連 第14回 演奏表現の多様性 第15回 定期試験 第16回 ピアノ演奏における身体の状態と表現の関連に基づく表現の実践 第17回 論文指導（教育実践学に基づく研究） 第18回 ピアノ演奏における高度な技能の習得 第19回 論文指導（教育実践学に基づく感受の分析方法） 第20回 音楽表現における創意工夫の多様性 第21回 論文内容の批判的検討 第22回 ピアノ曲における多層性（テクスチュアの認識と音色・強弱の関連性）の追求 第23回 ピアノ演奏における拍節・リズムと呼吸の関連性の追求 第24回 ピアノ演奏におけるカンタービレ奏法の追求 第25回 演奏表現における論理性(フレーズの関連性と形式)の追求 第26回 音楽の構造原理(反復・変化・対照)を基にした多様な表現の習得 第27回 論文の結論に対する批判的検討 第28回 風土・文化・歴史と演奏表現の関連,楽曲の解釈と表現の多様性に関する様々な 第29回 資料のまとめ方とプレゼンテーション(論文) 第30回 定期試験、授業アンケートの実施							
(6)成績評価の方法	関心・意欲・態度(10%)，個人内評価(10%)，表現の創意工夫(10%)，表現の技能(10%)、試演会における演奏(10%)， 論文の形式と内容(50%)を総合して評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可							
(7)成績評価の基準	ピアノ演奏に関しては，（i）表現の内容を適切に捉えており，（ii）知覚・感受をもとに自己の思いや意図をもって展開しており，（iii）表現内容にふさわしい技能を身につけており，（iv）自身の演奏解釈についてある程度言葉で説明ができ，（v）表現に多様性があり，かつ独自性を有するレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。 論文に関しては，（i）目的と方法が明瞭であり，（ii）先行研究を十分に行っており，（iii）目的達成のためにしっかりとした分析ができており，（iv）結論に対する批判的検討がなされており，（v）その上で独自性のある見解が客観性をもって提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。							

(8)事前事後学習の内容	ピアノ演奏に関しては、次回までに解決すべき課題を毎回指摘する。課題の達成度に関しては次の授業で確認する。授業内容を踏まえて十分に準備して授業に臨むこと。 論文に関しては、毎回、進捗状況を確認し、次回までに行うべき課題について指摘する。
(9)履修上の注意	事前学習の程度により毎講義・レッスンの内容の質が大きく左右されるので、十分な準備が必要である。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	N409室にて随時。研究室電話番号:026-238-4137 メールアドレス:pf-naka@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	文部科学省、『学習指導要領解説音楽編』小学校～高等学校 受講者の技量や習得すべき内容に応じて適宜、楽曲を指定する。 適宜、教員が資料を配布する。
【参考文献】	参考書： H.P.シュミッツ，井本日向二 滝井敬子共訳，『演奏の原理』，シンフォニア，1977 P.ドゥヴァイヨン，村田理夏子訳，『ピアノと仲良くなれるテクニック講座』，音楽之友社，2011 中島卓郎・他，『教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発』，日本教科内容学会編，あいり出版，2021